

モデル事業名	空き家、遊休農地の利用等地域資源を生かした限界集落からの脱却
活動団体名	特定非営利活動法人 森づくりS川根NPO
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス)
所属/ 担当者名	担当者氏名 理事長 種本康治 (問合せ先) 担当理事 北島 享
連絡先	電話番号0547-54-0661、Eメールアドレス koryu-c-sasama@cy.tnc.jp
活動地域	静岡県島田市川根町笹間地区

● 活動地域の概要

笹間地区は大井川の支流である笹間川に沿った10集落で構成されている。【位置図】
人口は現在約500人、世帯数約180世帯であり、10年前と比較すると、人口で約25%、世帯数で約13%減少している。特に高齢化率は50%に達する直前であり、昨年の出生者はほとんどなく、少子・高齢化が顕著になっている。
特に、基幹産業である林業、茶業は大変厳しい状況にあり、加えて平成19年4月には笹間小学校・笹間中学校が同時に廃校になり、地域としての活力や、まちづくりへの意欲が低下してきている



【空家の増加】



【茶耕作放棄地の状況】

● 活動地域の課題

平成21年度22年度昨年度事業で行った次の課題を継続・充実して取り組んだ。

①地域の魅力情報を伝える空き家をモデルにした田舎暮らしの社会実験、②地域の体験活動拠点としての旧小・中学校等施設の効果的な運営や体験内容の検討。③それらを支える食メニューの掘り起こし、提供等を行うとともに、③コミュニティ組織の拡充、人的資源のリストアップと体験プログラムの作成、④近隣地域との広域的連携を強化し、地域の魅力アップと交流人口の増加、就労の場の確保

● 活動の内容

(全体)

- ①地元コミュニティ組織と地域関係組織等との連絡協議による体験活動の連携確立
- ②旧小・中学校の利用計画に沿ったモデル体験の試行や山村都市交流センター等施設との活動連携の確立
- ③歴史・文化的な地域資源を組み合わせた体験プログラムの試行による交流人口の増加を図り地域を活性化
- ④近隣の農山村と広域連携を図り、広域体験ツアー等を試行し、自律した事業としての商品化を図る
- ⑤体験プログラムや田舎の伝統的な「食」の充実による笹間ファンの拡大と情報・商品の販売戦略の確立
- ⑥自立した活動の継続化を図る地元ブランド品開発(食、体験プログラム、アート作品など)による地域ビジネスの検討

(直近1年間の上記の活動進捗など)

- ① 第2回ささま祭りを11月に開催し、地区を離れた人や小中学校の同窓生も参加し、関係組織間のつながりを高めた。
- ② 陶芸家の道川氏を招いて、海外の事例やどのような方法で取り組むかなどを話し合いを行った。
来年度、陶芸フェスティバル開催を提案する。
- ③ 教育関係者を対象にした体験プログラムを経験していただき、今後の取組みの参考にした。
- ④ 笹間周辺地域との「天空の回廊」のネットワーク会議を行い、「そば」をテーマとした連携活動なども行う
- ⑤ 第2回ささま祭りにおいて、バイキング方式で「食」体験と新たな食のメニュー開発を行った。
- ⑥ 竹の体験プログラムの充実を図った。また、間伐材を使った体験施設づくりの参考に美濃市の森林アカデミーへ視察見学に行って、宿泊、体験、セミナーハウス等の間伐材を使ったイメージの共有化を行った。

● 活動の成果

・全体

(活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

地域づくりの目標が明確になり、活動もそれぞれの分担で少しずつ動いている。

特に旧笹間小学校を改築した、体験宿泊施設である「山村都市交流センターささま」を拠点に、地域活性化への具体的な取り組みが行なわれるようになった。

即ち地元の特徴ある料理づくりや商品化、体験メニューの検討と実施、イベントの開催等に積極的な参加が見られるようになった。

さらに、アクセス道路の拡幅等の行政支援によるインフラの整備もおこなわれるようになった。

また、笹間地区を離れた若者の一部が、運動場の草取りを支援する等、新たな動きもみられるようになった。

いずれにしても、過疎化が進む山村で「新たな公」モデル事業を実施できたことは、地域にとっても大きな自信となっており、活性化に向けて各種の活動が萌芽している。



笹間川探検

・直近1年間の成果など

(活動の状況、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入)

「山村都市交流センターささま」の管理運営が指定管理者制度により、地元にかかされることとなり、当森づくりS川根・NPOとしても、事業の成果や取り組みを踏まえ全面的に協力した。

特に、地域の資源を活かした体験ものについては、「竹めしづくり体験」や「竹細工」[コウモリの洞窟探検]等、新たなメニューの開発、実施等が好評であり、昨年度を大幅に上回る宿泊利用者があった。

また、「ホテルまつり」や「ささまふるさとまつり」の実施等地域住民が参画したイベントを開催した。

さらに空き家へ地域外からの転入家族もあり、若干ではあるが定住人口の増加もみられた。

さらに、地域の各種情報を積極的に発信し、新聞・テレビ等で取り上げられたのを始め、個人ブログが1年以上毎日更新され新聞に取り上げられるなど地域の魅力の発信に貢献している。



竹めしづくり体験

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

旧中学校の体験型施設への用途変更とそれに向けた施設内整備や付帯施設の整備

それと関連する地元間伐材を利用した関連施設の整備等

体験プログラム内容の充実と人材育成

周辺の天空の回廊との活動連携強化

・展望（今後の取組みや検討について記入）

間伐材を活用した、体験交流の陶芸・工芸の施設、宿泊施設とゲストハウス、作品展示交流施設の具現化に向けた官民の組織をつくり動き出している。

また、これらと連携して、インターナショナルセラミックフェスティバル in ささまを平成23年11月に開催することで準備を進めており、海外から有名な陶芸家11名の参加希望がでている。

● その他（自由記述）

前述のように来年度、海外、国内からの陶芸家が笹間地区に訪れ、日本で初めてとなる陶芸フェスティバルが開催される予定である。芸術家と地元、参加者の体験交流が知恵とアート作品を通じた新たな地域資源が笹間に創発し、地域再生につながるものと確信している。